



## ガンバレ、白根の農業青年たち

# 今だからこそ、農業です

仕事がきつい、休みが少ない。そんなイメージがつきまとうのか、若者の農業離れが進んでいます。白根市でも農業後継者が不足し、市農業振興計画の中に若者にとって魅力ある農業・農村づくりが課題として掲げられています。そんな中、農業に魅力を感じて、頑張る若者もいます。頑張れ、白根の農業青年たち！

## 応援します！ あなたのやる気

～各種助成事業・研修を紹介～

白根市では、やる気のある農業者を応援する各種事業を展開しています。制度を生かして、知識や技術を深めてみませんか。

### ●新規就農支援特別対策事業

新しく就農する人のため、研修や資本整備の費用を助成します。

■対象者 新規就農＝18歳～おおむね40歳までの新規学卒者、離職転入、在宅離職者、新規参入者 若手グループ就農＝18歳～おおむね40歳までの2人以上のグループ(新規就農者1人以上を含む) ■事業内容 研修経費の助成(月額15万円)、利用権設定地代の助成、経営規模拡大のための機械施設の助成、小規模基盤整備の助成

### ●農業大学講座

専門技術、最新技術を学ぶ専門講座は、稲作、果樹、野菜、花き花木、畜産の5コースから選択できます。このほか、視察研修やスポーツ交流会、合宿研修などがあります。

■期間 毎年度4月～3月(年間14回開催) ■対象者 18歳～30歳くらいまでの農業青年 ■講師 農業改良普及員、指導農業士ほか ■受講料 無料 ■その他 講座修了者には、市農業後継者としての認定条件が与えられます。

### ●農業人材育成事業

さまざまな農業研修に対して費用の一部を助成する制度です。  
■対象者 市内に居住する農業者 ■対象研修 国、県または付属機関が実施する研修 ■対象経費 参加費、交通費 ■助成率 対象経費の最大50%

このほかにも、海外派遣研修など各種研修や助成事業があります。申し込み・問い合わせは市役所農政課農政係 ☎373-2111 ☎233-234へ

## 外にも目を向け、農業にチャレンジ

大きく実ったトマトを一つひとつ丁寧に収穫していく高橋洋さん(中笠巻)。高橋さんは二年前に就農し、現在両親と一緒に野菜と水稲を中心にした農業を営んでいます。「農業をやる人のほとんどは、農家の跡継ぎ。自分もそうだけど、特に抵抗なく就農しました」という高橋さん。仕事の大変さを知っているからこそ就農しない人が大勢いる中、「大変なら少しでも良くし

ようと思つて」と就農を決意した当時を振り返ります。就農と同時に農大講座の野菜コースを受講し、今年で三年目。講座生のは場を巡回したり、先進地を視察したりできるのがためになるとか。「家で農業をしていると、どうしても視野が狭くなりがち。自分の所で当たり前と思うことでも、外から見ると考えも違ってきましたからね」。

昨年の冬に自分の名義で二百七十坪の鉄骨ハウスを建て、今年の春からトマトとキュウリを作り始めたところ。「自分が任せられる割合が大きくなってくれば、やる気もわきますよね」。「手をかけた野菜が順調に育っていくのを見ると、農業をやって良かったなあと思いますよ」と目を細める高橋さん。「今は、とにかく作って出荷するのが精いっぱいだけど、いろいろ工夫して、品質の良い野菜を作っていきたい。親父の代が頑張つて、有名にできた白根の農業です。白根の名がすたれないよう頑張っていきたい」と話してくれました。

## 自分のブドウを育てたい

本間克則さん(東笠巻新田1・20歳)

ブドウの産地として有名な長野県中野市。本間克則さん(東笠巻新田1)は、今年の春に農業大学校(巻町)を卒業してすぐ、中野市内の果樹農家に住み込み、栽培の知識や技術を学んでいます。研修先の萩原勝巳さん宅では、約二五〇アールの畑で、ブドウをはじめサクランボやリンゴ、プラムなどさまざまな果樹を栽培するカタワラ、昭和四十二年ころから国内外の農業研修生を受け入れ、若い農業者の育成に力を注いできました。萩原さんは、積極的に仕事に取り組み本間さんを「若いのに一生懸命だし、意欲的」と評価しています。

本間さんの研修期間は一年間。研修が終わると、白根に戻ってお父さんと一緒に農業をやることになっています。帰ってきたらブドウの栽培を中心にやりたいという本間さんに、お父さんは「長野県と新潟県とは気候が違うので、向こうで覚えた知識や技術がそのまま生かせるとは思わないが、とにかく体験することで、農作業の流れも分かってくるのでは。今後、自分で農業をやるようになれば、失敗することもあるでしょう。それを生かして経験を積んでいってほしい」と話します。

